

## 7月6日 白鳥の湖 新聞記事

今回、私たちは、バレエ「白鳥の湖」益田公演の主役のお二人にインタビューをさせていただいた。公演終了後だったためか、お二人は肩で息をされていた。ほおが赤みがかかり、生き生きとした表情から、今回の舞台の成功がうかがえる。

まず、今回の舞台の役柄を演じるさい、気をつけたことをうかがった。お二人は顔を見合わせ、少し恥ずかしそうにはにかみ王子役の柄本さんから話し始めた。

「一幕と四幕とでは、全く違うように演じました。」

一幕から王子が成長していく様子を、まるで自分自身が王子かのように話された。柄本さんが王子の気持ちに寄り添い、王子になって踊られていたことがうかがえた。

上野さんは“白鳥らしさ”そして“人間”どちらも意識して踊らなければならない。“白鳥に変えられた人間”という役柄を冷静に分析されていた。あるときは“白鳥らしく”と思ったら、またあるときは“人間”になっていた。「多面性が出るようにしました。」そう語る上野さんは、トップダンサーとしての威厳を放っていた。

インタビューはあっという間に終わってしまった。しかし、お二人

と会えたことは私にとってとても大切な宝物となった。

公演終了後で疲れていたときに、インタビューを受けてくださったお二人、協力してくださったスタッフの皆さん。そしてグラントワの皆さん。本当にありがとうございました。

今回の主役のお二人。そして東京バレエ団の皆様のみますますのご活躍をお祈りしている。

渡邊 詩花